

## 岐阜県立不破高等学校

学 校 長 堀 貴雄

学校所在地 不破郡垂井町宮代1919の1 電話 0584-22-1002

### 1 会議の名称 岐阜県立不破高等学校評議員会 (第1回)

### 2 会議の構成

(評議員は五十音順)

評議員	川上 裕美	宮代保育園園長
	桐山 正紘	垂井町社会福祉協議会前会長
	栞原 順子	元PTA会長
	田中 寛嗣	同窓会副会長
	西川 一明	宮代公民館館長
学校側	堀 貴雄	校長
	棚橋 毅	教頭
	石田 守義	事務長
	橋 博	教諭
	曾根 章好	教諭
	川瀬 和仁	教諭
	岡田 眞紀	教諭

### 3 会議の目的 学校運営について地域住民や保護者から幅広く意見を聴き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。

### 4 会議の開催 平成26年6月24日(火) 13:30~15:30 校長室 評議員5名と学校側7名が出席

### 5 会議の概要 (意見聴取・提案・提言等)

#### ○ 生徒の様子について

- ・ 音楽の授業(ウクレレ)に、一生懸命取り組んでいた。芸術面に気持ちを入れていけるのだと感動した。たとえば、園児にも今日の生徒の思いは伝わるものがあると感じた。
- ・ 教師と生徒のやり取りは、諭すように話されていて、以前の教師と生徒とは随分変わったと実感した。
- ・ フード・デザインの授業は10人中女子が2名で男子が8名と最近の変化に驚いた。
- ・ 授業中、様々な場面で、生徒は集中し、教員に反応している。
- ・ 地域での生徒の挨拶がよくなっているので全校集会等でほめてほしい。
- ・ 街中で躓いた人のところへ駆けつけ、「大丈夫ですか」と言ってくれた男子生徒がいた。
- ・ 挨拶に気持ちが入っていてよくなった。

#### ○ 学校への期待について

- ・ マニュアルがないと生きていけない傾向は現代の大人にもある。考え方が多様化し、今後どのように変わっていくか不安である。景気が回復しているとはいえ、末端は混沌としている。高校生は大人の加護の下にいるが、中途半端な社会人になってはいけないので、自分の力で生き

ていく力をつけてやってほしい。

- ・ 目標をつかめない者には、つかめるような指導を望む。
- ・ 今の生徒は、以前に比べお金はあるし、情報も多くある中にある。家庭は多様化し、どう育てていくのがよいかわからない状態である。そのような状況の中で、学校としての力をどう発揮させていくのか考えてほしい。
- ・ 進路変更する生徒も多いと聞くが、希望の持てる人間に育て、何とか卒業させてほしい。
- ・ 基礎的な学力が定着していない生徒には、それなりに工夫した授業をする必要がある。
- ・ 平均50～60点のテストを作成することは、生徒の実態にあわせて考える必要があり、それで高得点を取れば、ほめてやり、やる気を引き出すきっかけになる。
- ・ いじめのない楽しい学校にしてほしい。

#### ○ その他

- ・ 5類型の科目選択を進める上で、専門的な知識の教員が必要になるのではないか、また教員が不足するのではないか、目標に見合った体制があるのか気になった。
- ・ 看護に関する資格を取る上で経験年数等も必要であるので、実際の場での経験を社協との連携で行ってもよいのではないか。
- ・ 遅刻をする生徒は家庭の送り出しの問題もあると思う。
- ・ 本校は教員と生徒が向かい合っていてよい。
- ・ トラブルメーカーが減っていて、いい方向に向かっているのではないかと感じた。このままの方針でいけばよいのではないか。
- ・ 発達障がいをもつ生徒は高校にいると思う。ADHDは、叱ってもだめなので、そういう生徒へのよりきめ細かい指導ができるように教育委員会に対し、より一層の支援を要請してもらおうとよい。
- ・ 地域の行事への協力をよろしくお願いしたい。
- ・ 校内の整理整頓が行き届いている。このような環境を作れるのだから、今後も期待したい。

最後に（学校側よりお礼等）

校長より

本日言っていただいた本校についてのよくなってきていることをぜひ地域の方にPRしていただき、より一層不破高校を応援していただきたい。